

# 千年の森便り No.248

2024.8.27

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

### 8月18日（日）天候 晴れ時々雨のち土砂降り

今回は、久しぶりに土砂降りに遭遇し、ずぶ濡れになった活動日となりました。朝、集合場所に集まった時には陽射しが強く、今日も暑くなりそうなどと話をしていましたが、島に入ると晴れたり曇ったりで、時々雨粒がパラつくようなお天気となり、お昼ご飯を食べ終わった頃には本格的な雨になってしまいました。雨雲レーダーを確認すると、降っている場所は局所的でしたが、強い雨が1時間程度続くことが予想されたため、お昼で活動を終了し帰路につきました。

活動としては、相対照度調査、物置の屋根づくり、植生保護柵の被害調査、植物観察、センサーカメラのデータ回収などを行いました。参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、坂本、成沢、福島の会員7名でした。



モミの木の下で雨宿りしながら集合写真

### ○相対照度調査

森林内の光環境を把握するため、会では定期的に相対照度の調査を行っています。特に植物が成長する夏の時期の森林内の明るさは、そこに生育する植物に大きな影響を与えています。調査を行った相対照度は、何も障害物がない場所の明るさ（照度）に対する森林内の明るさ（照度）になります。明るさというのは、実は刻々と変化するため、相対照度を測定するためにはトランシーバで連絡を取り合いながら森林の中と外で照度計を使って同時に測定する必要があります。そこで、今回は照度計4台とトランシーバ4台を使用して同時に測定を行いました。なお、測定する際に照度計に太陽の光が直接当たると正確な相対照度が測定できないため、直射日光が照度計のセンサー部分に直接当たらないようにして測定を行いました。調査時間は10:00～11:00でした。

測定箇所は、昨年に引き続き巨木林植生保護柵内（以下、柵内）、千年広場、コナラ更新林の苗畑跡地、ヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地と、今回新たに追加したナラ枯れ被害地（枯死したコナラを伐採した箇所）の6地点です。柵内については4か所で測定しその平均値としました。対象とする場所は、障害物がほとんどない吊り橋の上としました。相対照度はバラツキが大きいので、各地点で4～5回の測定を行い、異常値と思われる値を除いた平均値をその地点の相対照度としました。



照度計とトランシーバ



照度調査中



千年広場の林冠



ナラ枯れ被害地の林床

表1に各調査地点（柵内は平均値）の相対照度と、その経年変化を示しました。柵内の相対照度は、最大が7.3%、最小が1.8%、4か所の平均値は4.1%でした。柵内とコナラ更新林の苗畑は、ともに4.1%と低い値でしたが、柵内はこれまでと同様の傾向が続いているのに対し、苗畑は年による変化が大きく、若い林であるため

に低木が繁茂してきた影響を受けていると考えられます。千年広場やヒメコマツの植栽地については、これまでと同様に相対照度は比較的高い値となっており、植栽したヒメコマツの成長には支障がない状況と考えられます。また、今回新たに追加したナラ枯れの被害箇所は 25.9%と比較的明るく、今後は林床に新たな植生が侵入してくると考えられます。今後も継続して相対照度を調査することにより、ナラ枯れによる明るさの変化と植生の変化を明らかにしていきたいと思えます。なお、今回の調査に使用した照度計とトランシーバは、セブン・イレブン記念財団の助成により購入したものです。(福島)

表-1 島内7地点の着葉期の相対照度の変化

測定箇所	相対照度 (%)							
	着葉期							
	2017.9.18	2018.7.16	2019.7.21	2020.7.19	2021.7.18	2022.7.18	2023.7.17	2024.8.18
千年広場中央	33.9	21.1	14.1	22.9	15.9	22.5	28.8	30.5
コナラ更新林の苗畑	22.4	13.0	-	12.6	18.2	5.0	21.2	4.1
コナラ更新林ヒメコマツ	47.1	41.6	28.8	36.0	26.3	33.6	55.0	46.3
岬ヒメコマツ	30.7	37.6	40.8	32.5	28.7	13.2	38.2	49.3
コナラ伐採地	45.7	30.7	27.9	21.8	29.4			
巨木林柵内 (2014年までの6回の平均は1.9%)						4.1	5.4	4.1
ナラ枯れ被害地								25.9

コナラ伐採地は20地点の平均値、巨木林柵内は2023年まで25地点の平均値 (2024年は4地点の平均値)

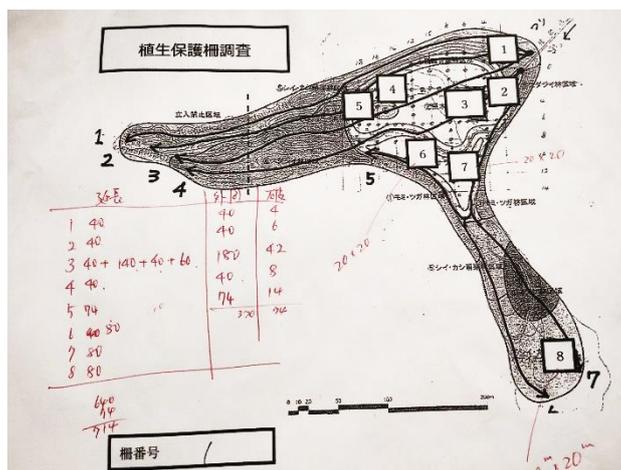
## ○植生保護柵の破損状況調査

会の活動地である豊英島には希少な植物が多く生育していますが、一方でニホンジカの食害が激しく、希少植物を含めた植生を食害から保護するために植生保護柵を設置してきました。これまでに設置した保護柵は、8か所、柵の延長は約700mになります。これまで、保護柵の設置によりニホンジカの食害の影響はある程度防ぐことができていたのですが、最近になって島内にイノシシが出没するようになり、イノシシによると思われる保護柵の破損が見られるようになってきました。

そこで、今後の植生保護の方法を検討するため、植生保護柵の破損の状況を調査しました。今回調査したのは8か所のうち5か所で、5か所すべてに破損が確認されました。破損の内容は、イノシシやニホンジカによって穴を開けられたもののほかにも、枯れ枝が落下して破損したものがありました。延長では、柵の外周370mのうち約70mが破損していました。

残りの3か所の保護柵についても破損状況の調査を行う予定ですが、保護柵の破損が激しいことを考えると、イノシシにも対応した新たな植生保護の方法を考えていく必要があります。

なお、センサーカメラで記録される動物を見ると、最近はいノシシやキョンの記録が増える一方で、ニホンジカの記録が減っているという状況もあり、食害の程度も変化している可能性があります。植生の保護も生態系全体の変化をよく観察して対応していく必要があります。(福島)



植生保護柵の設置場所



枯れ枝が落下して破損した植生保護柵

## ○8月のコナラ伐採地

中高木区域はカラスザンショウ、コナラ、ヤマハギ、クリ等が大きくなり、日光不足のためか下草はほとんどありません。低木草区域は腰のあたりまでまんべんなく植物に覆われています。サルトリイバラのツルは太く、周辺の植物に絡みついていた。虫たちも活発に活動しています。オオカマキリ？は何か獲物を狙っているような様子でじっとしていました。クロアゲハはひらひらとあちらこちらに飛んでいて、撮影は出来ませんでした。黒くて、腹部にオレンジ色の帯のある大きめのハチ（オオモンクロクモバチ？）が羽音をならして足元に絡みつくように飛んでいました。保護柵に囲まれたコナラ伐採地は、実に、生命溢れる場所といった感があります。

目立っていたのは、カラスザンショウの白っぽい花、ウラジロガシの赤褐色の新芽、ナガバノコウヤボウキ、オトコエシ、ヘクソカズラです。ヤマユリとキヨスミギボウシは緑色の朔果となっていました。（秋元）



カラスザンショウ



ウラジロガシ



ナガバノコウヤボウキ



オトコエシ



ヘクソカズラ



オオカマキリ？

## ○物置の屋根づくり

大原棟梁の指揮のもと、途中になっていた物置の屋根づくりを行いました。今回は、前の作業で割った竹で屋根の下地を張り、その上にビニールシートを被せました。雨が降ってきてしまったため作業はここまでで中断。次回も引き続き屋根づくりを行います。周囲の自然と一体化した草屋根を目指します。

## ○夏草や・・・

千年の森便りの原稿を依頼されましたが、今回は書く事が無いので埋め草原稿です。

中高生の頃の夏休みはアルバイトばかりしていました。清和県民の森近くの田舎村ですから気の利いたアルバイト先は無く、もっぱら植林地の下草刈りでした。当時は植林事業が盛んで日雇い作業員の需要があった訳です。一日中長刀のように柄の長い鎌を振り回すので、まだ体力の乏しい自分にはつらいものでした。それより辛いのは逃げ場の無い直射日光と草からの蒸散による蒸し暑さでした。仕事を始めると直ぐに全身汗まみれ、衣類に塩の結晶が白く浮き出て、喉はカラカラになります。これが私の夏の思い出。お陰で随分鍛えられました。

今はエンジン付きの刈払機があるので、昔に比べれば体力的には楽になって効率も良いと思いますが、近年の猛暑の下では相変わらず厳しい仕事に変わりありません。山の手入れを怠り荒れたままにしているのは、けしからんと偉そうに評論家みたいな事を言う人には、1時間でいいから自分でやって見ろと言いたくなります。

それにしても夏草は遅しい。植林地に限らず、農地も公園も道路脇も放って置けばすぐに草の海に埋もれます。

「夏草や兵どもが夢の跡 芭蕉」句の通りです。

（坂本）

## ○センサーカメラの動物たち

今回データの回収を行ったのはCAM1、CAM2で、CAM3は雨が激しくなったためデータの回収ができませんでした。記録状況は、CAM1については6月16日から8月18日までの約2か月記録されていましたが、CAM2については7月27日以降電池切れのため記録がありませんでした。

記録されていた動物はキョンが圧倒的に多く、CAM1で64日中47日、CAM2で41日中16日記録されていました。記録が2日以上あったのは、CAM1でタヌキ、ハクビシン、アライグマ、リス、アナグマ、CAM2でタヌキ、ハクビシン、アライグマでした。ほかには、テン、ニホンザル、オシドリ、コジュケイ、ヤマガラ、カラスが記録されていました。また、写真からキョンはオスの成獣が2頭（角が大、小）、メス、幼獣、タヌキは成獣と幼獣2頭が区別できました。なお、ニホンジカ、イノシシの記録はありませんでした。ニホンジカについては2月以降記録がなく島を利用する個体がいなくなったのかもしれない。（福島）

- 設置期間：CAM1：6月16日～8月18日（64日間）、CAM2：6月16日～7月26日（41日間）
- 設置場所：CAM1(つり橋着岸点付近)、CAM2(ホテイ岬への分岐点付近)、CAM3(ホテイ岬先端付近)
- 日数は記録された日数で、同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1 キョン47日、タヌキ17日、ハクビシン13日、アライグマ6日、リス5日、アナグマ3日、ニホンザル1日、テン1日、オシドリ1日、コジュケイ1日

CAM2 キョン16日、タヌキ4日、アライグマ2日、ハクビシン2日、ヤマガラ1日、カラス1日



キョン（オス角大）



子供をくわえたタヌキ



アナグマ



リス

## お知らせ

○次回の定例活動は9月16日（月祝）です。

ニホンジカ生息状況調査、駐車場・電柵付近の草刈り、物置の屋根づくりの続き、危険木伐採、環境整備（観察路、広場）の予定です。詳細については今後調整します。

ご参加をよろしくお願いいたします。島に入る際はヘルメット着用を忘れずに！